

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名: ポストペタスケールデータインテンシブサイエンスのためのシステムソフトウェア

2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名(研究機関名・職名は研究参加期間終了時点):

研究代表者

建部 修見(筑波大学大学院システム情報系 教授)

主たる共同研究者

大山 恵弘(電気通信大学大学院情報理工学研究科 准教授)

3. 事後評価結果

○評点:

| |
|------------------|
| A 期待通りの成果が得られている |
|------------------|

○総合評価コメント:

大規模な実証実験や実応用への展開には至らなかったものの、すでに実用に供しているファイルシステム Gfarm をベースに、ポストペタ・エクサスケール時代のニーズ対応できる次世代大規模ファイルシステムに向けた現実的なプロトタイピングのレベルは達成しており、その観点で期待通りと判断できる。想定するような規模での実証実験は現実的には不可能であり、シミュレーションによる評価での検証が行われている。ビッグデータ解析、AI などデータサイエンスへの期待の高まりから、高性能分散データ処理を行う上で大容量・高性能ストレージの実現は重要な課題であり、今後、本研究課題の成果がポストペタスケールシステムやエクサスケールシステム規模での有効性を実証していくことが重要である。Gfarm の産業界への展開についてはすでに NPO 法人が設立されており、実用でのファイルシステムに必要な安定性の観点から成果適用に必要なソフトウェア品質の確保や大規模な実証実験など、この NPO 法人を含む開発体制・コミュニティの維持・充実に努め、成果の展開に期待したい。